

令和 3 年 6 月 9 日現在

機関番号：32414

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K01090

研究課題名(和文) 言語聴覚士養成における教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの検証と確立

研究課題名(英文) Developing the educational guidelines and model core curriculum for speech-language-hearing therapists in Japan: verification of the 2017 proposal

研究代表者

内山 千鶴子 (UCHIYAMA, Chizuko)

目白大学・保健医療学部・教授

研究者番号：70433670

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は言語聴覚士養成教育の教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムを構築することである。この研究の独自的な方法は養成校教員と言語聴覚士協会に所属する言語聴覚士にアンケートを実施し多くの言語聴覚士の意見を反映させることだった。研究1年目(2017年)から4年をかけて養成教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラム(MCC)を作成し、MCC全体としての整合性を整え、実現可能な内容を時間数、内容等をシラバスに当てはめ検証した。

本研究で課題として生じた臨床実習の評価を全国統一することは、今後の研究課題として全国の養成校と実習施設に臨床教育に関するアンケートを行い検討する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は言語聴覚士養成教育研究における初めての試みで、養成校教員と臨床実習指導者が協働で進めたことが独創的で学際的特徴である。社会的意義は言語聴覚士養成教育ガイドラインとMCCの完成により全国の養成教育の質が一定の水準を担保できる。それにより国家試験合格率の向上が期待でき、言語聴覚士不足の解消に寄与できる。また、教育レベルが向上し対象者に対して質の高い言語聴覚療法が提供できる。臨床実習指導者は、養成校別に指導の内容を変える必要がなく、指導内容が明確で臨床実習が円滑に進む。また、学生は何を学ぶべきか教育の目標が明確で、学習意欲を維持し、途中で目標を見失う可能性や中途退学者の減少が期待できる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop an educational guideline and model core curriculum for speech, language and hearing therapist training education. The unique method of this study was to conduct a questionnaire to the teachers of the training school and the speech therapists belonging to the Association of Speech Therapists to reflect the opinions of many speech therapists.

From the first year of research (2017) to four years, we have completed the Training Education Guidelines and the Model Core Curriculum (MCC). Then, we applied the syllabus to verify that the contents of the MCC are consistent and feasible.

To unify the evaluation of clinical training that occurred as an issue in this research nationwide, we plan to conduct a questionnaire on clinical education to training schools nationwide as a future research issue.

研究分野：教育学、教育工学、リハビリテーション

キーワード：言語聴覚士 養成教育 ガイドライン モデル・コア・カリキュラム

1. 研究開始当初の背景

(1) 言語聴覚士養成教育に関する研究の現状：言語聴覚士とは音声や言語機能または聴覚や摂食・嚥下に障害がある方のリハビリを担当する職業である。この職業は人間の生きる機能と深く関わる職務内容である。平成 10 年に言語聴覚士法が施行され 15 年以上が経過したが、言語聴覚士養成教育に関する研究は初年次教育（内山,2013,2012,2011）臨床実習教育（藤田,2011,内山,2016,2011,2010）と部分的な教育内容に関して散見できる程度である。養成校教育全体を捉えた研究は数少ない（内山ら,2015）。

(2) 言語聴覚士養成教育の問題点：現在の言語聴覚士養成教育は厚生労働省の定める言語聴覚士学校養成所指定規則(平成 10 年制定)に従っている。しかし、ここでの規定は学習すべき科目と単位数のみで、具体的な教育内容は教員の裁量に任されているため、養成校全体に不都合が生じている。例えば、学外の臨床実習指導者の多くが、養成校別に学生の到達レベルを変えなければならないという臨床実習指導上の困難を抱えている（藤田,2011）。また、学生は学習すべき内容の明確な指針が無いため、目標や評価が不明で学習意欲を低下させている（内山,2011）。さらに、医療研修推進財団の発表では第 17 回（2015）言語聴覚士国家試験における養成校全体の合格率は 70.9%で、養成校別では 100%～6.7%、第 18 回（2016）の養成校全体 67.6%、養成校別 100%～25%と合格率に養成校格差がみられる。これらの問題を改善するために全養成校共通の明確な教育内容が保障されることが望まれ、研究代表者らは日本で唯一の言語聴覚士職能団体である（社）日本言語聴覚士協会に依頼し、平成 24 年 11 月に言語聴覚士教育モデル・コア・カリキュラム諮問委員会（以下コアカリ委員会）を創設した。

(3) 言語聴覚士養成教育における教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの必要性：平成 24 年以来、コアカリ委員会で教育内容の改革に必要な資料を収集し検討作業を続けた。平成 26 年から 3 年計画で「言語聴覚士教育におけるモデル・コア・カリキュラムの構築」として、科学研究費を獲得でき 3 年間研究を続けた（内山、2016,2015,2014）。コアカリ委員会のメンバーが研究協力者である。この委員会で作成した案を学会や研究会等で報告し、養成校教員と臨床施設の言語聴覚士の意見を聴取し、作成案の修正を 3 年間繰り返した。その結果、教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラム（以下コアカリ）の枠組みと専門教育、臨床実習を含む専門分野のコアカリが作成でき、平成 28 年 6 月の言語聴覚士協会教員研修会等で報告した。その後、養成校教員にアンケートを実施し意見を徴収し修正に至っている。

(4) 教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの完成と確立：過去に実施した 2 回の養成校教員アンケート結果と学会発表時の参加者による意見では、多くの教員がコアカリの完成を待望している。従って、コアカリの完成はコアカリ委員会の責務であると考え。残る専門基礎分野のコアカリを作成し、コアカリ全体としての整合性を整え、実現可能な内容であるか検証する。この案を学会等で報告し、最終的に養成校教員と臨床施設の言語聴覚士にアンケートを実施し意見を聴取し、それをもとに最終修正し完成させる。完成版の公表と普及を行うと同時に、コアカリ作成過程で明確になった言語聴覚士学校養成所指定規則の問題点を整理し、今後の指定規則改変に向けた資料を提供できることでコアカリを確立したと考える。

2. 研究の目的

(1) 教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの専門基礎分野の作成：研究 1 年目には、すでに作成した教育ガイドラインとコアカリを修正すると同時に、研究代表者と 13 人の研究協力者を中心に専門基礎分野のカリキュラムを作成する。また、コアカリ全体としての整合性を整え、実現可能な内容であるかを時間数、内容等をシラバスに当てはめ検証する。

(2) 教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムに対する言語聴覚士からの意見収集：研究 2 年目には、作成した案をコアカリ委員会で検討した後、言語聴覚学会等で発表し参加者から意見を聴取する。さらに、養成校ヘンターネットのメーリングリストを使用し、同修正案に対するアンケートを実施する。また、言語聴覚士協会のホームページにおける会員ページですでに作成したコアカリサイトに作成案を掲載し、意見を投稿できるようにする。以上の 3 つの方法でコアカリの内容と順序性が妥当であるか多くの言語聴覚士から意見を収集する。

(3) 教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの完成と普及：収集した意見と情報を集約し再度、教育ガイドラインとコアカリをコアカリ委員会で修正し完成させる。完成した教育ガイドラインとコアカリの共有化を図る目的で研究 3 年目には、講演会を開催し、冊子を作製する。冊子は実習担当者に配布すると同時に、協会のホームページから無料でダウンロードできるようにする。さらに、言語聴覚学会、全国リハビリテーション学校協会教育研修会、医学教育学会等で発表し普及を目指す。完成させた後も協会のホームページ上のコアカリサイトは継続し、言語聴覚士からの意見を常時収集できるシステムを存続させる。

(4) 言語聴覚士学校養成所指定規則の問題点を整理：指定規則は平成 10 年に制定されて 15 年以上経過し言語聴覚療法をめぐる様々な社会状況が変化しているにもかかわらず、見直しが行われていない。研究の最後にコアカリ作成過程で明らかとなったカリキュラムの内容、順序性、関

連性等、指定規則の問題点を整理することで今後の養成教育の向上に役立てる。

3. 研究の方法

研究計画の全体像を図1に示した。

1 年目：全国養成校のシラバスを収集する。研究代表者と協力者で教育ガイドラインの完成と収集したシラバスを参考とし、コアカリの未完成部分である基礎専門分野を委員会で討議し作成する。
 2 年目：全コアカリ案を学会等で報告する。また、言語聴覚士協会のホームページのコアカリサイトでも掲載する。養成校教員と言語聴覚士協会員にアンケートを実施し、意見を収集する。
 3 年目：意見を集約し、最終的に修正した言語聴覚士養成教育ガイドラインとコアカリを完成させ、学会と講演会で公表、普及する。養成教育関係者から意見を常時聴取できるシステムは継続させる。完成したコアカリから言語聴覚士学校養成所指定規則の問題点を整理する。

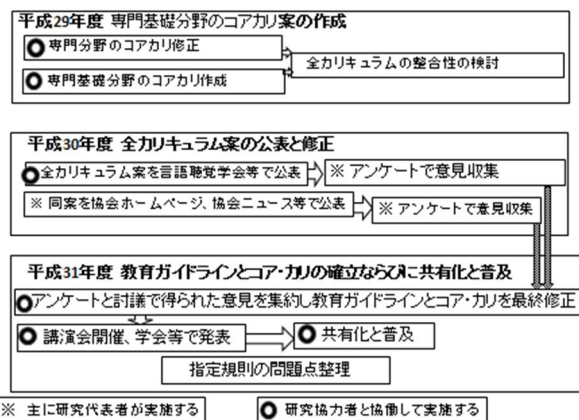


図1 研究計画の全体

4. 研究成果

1 年目：2017 年は研究計画である専門基礎分野のモデル・コア・カリキュラムを作成するため、委員の専門性を活かし役割分担し、案を作成した。作成にあたり、言語聴覚障害、言語聴覚療法のカリキュラムとの整合性を整えるため、全体の枠組みを再検討した。また、実現可能な内容であるかを単位数、時間数、従来の科目名、ならびにシラバスに当てはめ検証した。同時に、平成29年6月に発表した言語聴覚士養成教育における教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラム(第2次案)に対する意見と、同案を日本言語聴覚士協会のホームページに掲載し収集した意見を総合して第2次案を修正した。
 2 年目：2018 年度は「言語聴覚士養成教育における教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラム」を完成させることである。方法は言語聴覚士協会諮問委員会で案を作成し、学会や言語聴覚士協会のWEB サイト等で言語聴覚士や関連職種・関係者に発表・公表し意見を収集した。その意見を加味し案を修正させた。また、養成校教員にアンケート調査を行い、その結果も反映させた。特に、今回は言語聴覚士養成教育ガイドラインの体裁を整え、モデル・コア・カリキュラムの全体的な繋がりを考慮した。この案を2018年6月の第19回日本言語聴覚学会前日に開催された日本言語聴覚士協会教育部主催の教員交流会で「言語聴覚士養成教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラム」の最終報告とし発表し、養成校教員から意見を収集した。同上学会でパネルディスカッションを開催し、同上学会で3題ポスター発表をした。同年8月に第31回全国リハビリテーション学校協会教育研究大会・教育研修会前日の言語聴覚部門教員研修会で「言語聴覚士養成教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラム」の最終報告をし意見を交換した。同研究大会で3題口頭発表をした。以上の発表ごとに参加者から意見を聴取、その意見を参考に修正を重ね、最終案として2018年9月に「言語聴覚士養成教育ガイドライン」を完成させ、冊子を作成した。これを全国言語聴覚士養成校と関連学会、行政関連部門に配布した。言語聴覚士協会ホームページの会員ページに「言語聴覚士養成教育ガイドライン」としてPDF ファイルを掲載した。
 3 年目：2019 年は、完成した教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの共有化を図る目的で冊子を作製し、養成校と関連機関に配布した。同時に、協会のホームページから無料でダウンロードできるようにした。さらに、言語聴覚学会、全国リハビリテーション学校協会教育研修会等で発表し普及を目指した。研究の最後に MCC 作成過程で明らかとなったカリキュラムの内容、順序性、関連性等、指定規則の問題点を整理することで今後の養成教育の向上に役立てる予定であったが、カリキュラムの内容の検討のみで指定規則の問題点を挙げるまでは進まなかった。
 4 年目：2020 年にモデル・コア・カリキュラムの作成過程で明らかとなったカリキュラムの内容、順序性、関連性等、指定規則の問題点を整理する目的で情報収集する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で従来の方法での情報収集ができなかった。しかし、言語聴覚士養成教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムを広く広報する活動は進めた。言語聴覚士の県士会や、全国リハビリテーション学校協会の関東甲信越ブロックで発表した。また、全国的に情報発信するため、研究論文を2題投稿し掲載された。本研究で課題として生じた臨床実習の評価を全国統一することに関して、研究協力者とリモート会議で討議を進めた。その結果、全国の養成校に臨床教育に関するアンケートを行うこととし、アンケート内容の検討を開始した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 内山千鶴子	4. 巻 26
2. 論文標題 モデル・コア・カリキュラムを基に今後の実習の在り方について言語聴覚士養成教育における臨床実習教育の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リハビリテーション教育研究	6. 最初と最後の頁 20-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 内山千鶴子、藤田郁代、倉智雅子、深浦順一、長谷川賢一、立石雅子、鈴木真生、為数哲史、瀬戸淳子、藤原百合、飯塚菜央、城間将江、柴本勇	4. 巻 25
2. 論文標題 言語聴覚士養成教育における教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの構築：教育ガイドラインの作成について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リハビリテーション教育研究	6. 最初と最後の頁 108-109
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 為数哲史、藤田郁代、内山千鶴子、深浦順一、長谷川賢一、立石雅子、藤原百合、飯塚菜央、倉智雅子、柴本勇、城間将江、鈴木真生、瀬戸淳子	4. 巻 25
2. 論文標題 言語聴覚士養成教育における教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの構築：基礎から専門領域の学修に関して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リハビリテーション教育研究	6. 最初と最後の頁 110-111
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 鈴木真生、藤田郁代、内山千鶴子、為数哲史、深浦順一、立石雅子、長谷川賢一、倉智雅子、城間将江、藤原百合、柴本勇、瀬戸淳子、飯塚菜央	4. 巻 25
2. 論文標題 言語聴覚士養成教育における教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの構築：臨床実習に関して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 リハビリテーション教育研究	6. 最初と最後の頁 112-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 内山千鶴子	4. 巻 11
2. 論文標題 言語聴覚学科におけるPBLとReflective(自省的)モデルによる feed backを用いた自主的学びの効果の検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人と教育	6. 最初と最後の頁 28-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 内山千鶴子
2. 発表標題 モデル・コア・カリキュラムを基に今後の実習の在り方について言語聴覚士養成教育における臨床実習教育の課題
3. 学会等名 全国リハビリテーション学校協会第32回教育研究大会・教員研修会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chizuko Uchiyama, Masako Fujii-Kurachi
2. 発表標題 Verification of Model Core Curriculum and its Application in Future Clinical Practice
3. 学会等名 The 31st World Congress of the IALP (International Association of Logopedics and Phoniatrics) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 内山千鶴子、藤田郁代、倉智雅子、深浦順一、長谷川賢一、立石雅子、鈴木真生、原由紀、為数哲史、瀬戸淳子、藤原百合、飯塚菜央、城間将江、柴本勇
2. 発表標題 言語聴覚士養成教育における教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの構築：教育ガイドラインの作成について
3. 学会等名 第19回日本言語聴覚学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 倉智雅子、藤田郁代、内山千鶴子、原 由紀、深浦順一、飯塚菜央、鈴木真生、柴本 勇、城間将江、瀬戸淳子、立石雅子、為数哲司、長谷川賢一、藤原百合
2. 発表標題 言語聴覚士養成教育における教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの構築：基礎から専門領域の学修に関するカリキュラムについて
3. 学会等名 第19回日本語聴覚学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木真生、藤田郁代、内山千鶴子、倉智雅子、原由紀、深浦順一、立石雅子、長谷川賢一、飯塚菜央、柴本勇、城間将江、瀬戸淳子、為数哲司、藤原百合
2. 発表標題 言語聴覚士養成教育における教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの構築：臨床実習の学修に関するカリキュラムについて
3. 学会等名 第19回日本語聴覚学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内山千鶴子
2. 発表標題 言語聴覚士養成教育における教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの検討
3. 学会等名 第19回日本語聴覚学会・養成教員研修会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内山千鶴子、藤田郁代、倉智雅子、深浦順一、長谷川賢一、立石雅子、鈴木真生、為数哲史、瀬戸淳子、藤原百合、飯塚菜央、城間将江、柴本勇
2. 発表標題 語聴覚士養成教育における教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの構築：教育ガイドラインの作成
3. 学会等名 第25回全国リハビリテーション学校協会教育研究大会・教育研修会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 為数哲司、藤田郁代、内山千鶴子、深浦順一、長谷川賢一、立石雅子、藤原百合、飯塚菜央、倉智雅子、柴本勇、城間将江、鈴木真生、 瀬戸淳子
2. 発表標題 言語聴覚士養成教育における教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの構築：基礎から専門領域の学修に関して
3. 学会等名 第25回全国リハビリテーション学校協会教育研究大会・教育研修会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 鈴木真生、藤田郁代、内山千鶴子、為数哲史、深浦順一、立石雅子、長谷川賢一、倉智雅子、城間将江、藤原百合、柴本勇、瀬戸淳子、飯塚菜央
2. 発表標題 言語聴覚士養成教育における教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの構築：臨床実習に関して
3. 学会等名 第25回全国リハビリテーション学校協会教育研究大会・教育研修会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内山千鶴子
2. 発表標題 言語聴覚士養成教育における教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの構築：基礎から専門領域の学修に関して
3. 学会等名 第25回全国リハビリテーション学校協会教育研究大会・教育研修会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Chizuko Uchiyama, Masako Fujiu-Kurachi, Ikuyo Fujita, Jyunnichi Fukaura, Masako Tateishi, Yuki Hara, Tetushi Tamekazu, Maki Suzuki, Yuri Fujiwara, Nao Iizuka, Junko Seto, Masae Shiroma, Isamu Shibamoto
2. 発表標題 Developing Educational Guidelines and Model Core Curriculum for SLPs in Japan
3. 学会等名 2018 ASHA (American Speech-Language-Hearing Association) Convention (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 内山千鶴子
2. 発表標題 言語聴覚士養成教育について：教育ガイドラインとモデル・コア・カリキュラムの構築を中心に
3. 学会等名 全国リハビリテーション学校協会教育関東ブロック研修会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Chizuko Uchiyama et al.
2. 発表標題 Developing Educational Guidelines and Model Core Curriculum for Speech-Language-Hearing Therapists in Japan
3. 学会等名 10th Biennial Asia Pacific Conference on Speech, Language and Hearing（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takashi Goto et al.(inc.Chizuko Uchiyama)
2. 発表標題 Newly Developed Instructional Video Intervention Improves Conversational Skills in Speech-Language-Hearing Therapy Students
3. 学会等名 10th Biennial Asia Pacific Conference on Speech, Language and Hearing（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 内山千鶴子
2. 発表標題 言語聴覚士教育ガイドライン・モデル・コア・カリキュラム（第2次案）
3. 学会等名 日本言語聴覚学会協会企画
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 内山千鶴子（第3章、他）半田理恵子、藤田育代監修	4. 発行年 2019年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 218
3. 書名 地域言語聴覚療法学	

1. 著者名 内山千鶴子（第3章、他）半田理恵子他監修	4. 発行年 2019年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 218
3. 書名 地域言語聴覚療法学	

1. 著者名 深浦順一、内山千鶴子編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 建帛社	5. 総ページ数 199
3. 書名 言語聴覚士のための臨床実習テキスト言語聴覚士のためのー小児編ー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>言語聴覚士養成教育ガイドライン掲載のお知らせ https://members.jaslht.or.jp/member/notifications/view/794 ST養成教育ガイドライン ファイルのダウンロード https://www.jaslht.or.jp/upload_file/koakari_sakusei.pdf https://www.jaslht.or.jp/st_app/upload_file/guideline.pdf 言語聴覚士養成教育ガイドライン・モデル・コア・カリキュラムの作成について https://www.jaslht.or.jp/upload_file/koakari_sakusei.pdf 言語聴覚士養成教育ガイドライン・モデル・コア・カリキュラム（第2次案）について http://www.jaslht.or.jp/st_app/upload_file/guideline.pdf</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	藤田 郁代 (Fujita Ikuyo)		
研究協力者	倉智 雅子 (Kurachi Masako)		
研究協力者	原 由紀 (Hara Yuki)		
研究協力者	深浦 順一 (Fukaura Jyunichi)		
研究協力者	立石 雅子 (Tateishi Masako)		
研究協力者	長谷川 賢一 (Hasegawa Kenichi)		
研究協力者	為数 哲司 (Tamekazu Tetushi)		
研究協力者	瀬戸 淳子 (Seto Jyunko)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	藤原 百合 (Fujiwara Yuri)		
研究協力者	城間 将江 (Shiroma Masae)		
研究協力者	鈴木 真生 (Suzuki Maki)		
研究協力者	飯塚 菜央 (Iizuka Nao)		
研究協力者	柴本 勇 (Shibamoto Isamu)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関